

# 一般社団法人日本鉱物科学会 2023年度 定時総会 資料 決算及び事業報告

日時：2024年9月13日（金）14：00～15：15

場所：名古屋大学 東山キャンパス ES総合館 ESホール  
（〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町）

議長選出：（ ） 会員

開会宣言：

定足数の確認：846名×10分の1以上=85人以上 （ ） 名

当日(ZOOM参加含)（ ）人 (ZOOM 人) + 委任状( )人 + 書面議決書( 人)

物故会員への黙禱：吉永 真弓 永年会員，坂巻 幸雄 永年会員，樋口 康則 シニア会員

会長挨拶

目的事項

報告事項

- I. 2023年度（一般社団法人第8期）事業報告  
（和文誌，英文誌編集，行事，広報，渉外，庶務，Elements，会員，その他）
- II. 2024年度（一般社団法人第9期）事業計画書及び収支予算などの件
- III. その他

決議事項

- I. 第1号議案 2023年度（一般社団法人第8期）事業報告承認，決算承認の件
- II. 第2号議案 役員（理事，監事）選任の件

資料：2023年度定時総会資料 決算及び事業報告

1. 2024年度収支予算
2. 2023年度決算報告
  - 1) 貸借対照表
  - 2) 正味財産増減計算書
  - 3) 財務諸表に対する注記
  - 4) 附属明細書
3. 監査報告書

閉会宣言：

協定調印式

モンゴル資源地質学会と一般社団法人日本鉱物科学会との学術交流協定延長調印式

授賞式

- 一、日本鉱物科学会賞授与
- 一、渡邊萬次郎賞授与
- 一、日本鉱物科学会論文賞授与
- 一、日本鉱物科学会研究奨励賞授与
- 一、日本鉱物科学会応用鉱物科学賞授与
- 一、JMPS学生論文賞授与

## 報告事項

### I. 2023年度事業報告（一般社団法人第8期 2023年8月1日～2024年7月31日）

#### 大和田 正明 会長 挨拶

一言ご挨拶申し上げます。

恒例により、一般社団法人日本鉱物科学会が定款に定める事業の概要を確認します。

本会は、目的として鉱物科学及びこれに関連する諸分野の学問の進歩と普及をはかることを定款第3条に定め、それを達成するため、第4条で次の事業を行うと記しています。

- (1) 和文誌（岩石鉱物科学）、英文誌（Journal of Mineralogical and Petrological Sciences）、その他の冊子版、電子版による発行
- (2) 総会、講演会、研究部会、その他学術に関する集会及び行事の開催
- (3) 研究の奨励及び業績の表彰
- (4) その他本会の目的を達成するために必要な事業

2023年度は一般社団法人日本鉱物科学会として第8期です。また、「コロナ禍」という言葉が聞かれなくなりつつあります。そうした中、ハイブリッドでの年会も定着してきました。今後はさらに多くの会員の皆様に参加しやすい年会を目指したいと思います。そして、年会の場を積極的に利用しつつ、鉱物科学の発展に貢献できる学会の地位を固めたいと思います。これからも、学会活動へご協力を心からお願い申し上げます。

さて、新たな事務局体制での学会運営のスタートから1年が経ちました。運営が軌道に乗るまでのこの間、皆様にご迷惑をお掛けしたことが多々あったと存じます。しかしながら、会員の皆様のご協力によって、まずスタートの1年がなんとか過ぎようとしています。今後も皆様からのご意見に耳を傾けて鉱物科学会の発展に尽力したいと考えています。

今年は新年早々の能登半島地震、梅雨時期とお盆時期の台風禍、さらには南海トラフ地震の想定震源域内での地震と自然の猛威の前に我々はさらされています。自然は我々の日常とは無関係に営まれています。そうした中、物質科学的側面から地球の姿を解き明かしてきた鉱物科学の発展が今後も期待されます。鉱物科学及びこれに関連する諸分野の学問の進歩と普及をはかることを目的とした当学会の真価がますます問われる状況にあると言えます。

本年の年会も、ハイブリッド型式を含めた発表形式で進みます。こうした運営方法によって多くの参加者を得て、活発な議論を展開できたことは、LOCの尽力と会員の皆様の協力の賜物です。学問と学会の発展に向かって前進できたことを嬉しく思います。改めて、開催にご尽力をいただいた皆様に深く感謝申し上げます。本会の運営は、引き続き厳しい状況であることは間違いありませんが、この間、執行部、理事は、学会事業の見直しを検討してきました。その結果、財政の健全化をはかりつつ学術活動に専念できる体制を整え、会員の皆様や社会に貢献する活気を取り戻す道筋が見えてきたと思います。引き続き皆様の積極的な参加をお願い申し上げます。ご挨拶といたします。

以下の個別の事業状況については、各業務の各担当幹事等より報告いたします。

#### (1)和文誌(岩石鉱物科学)、英文誌(Journal of Mineralogical and Petrological Sciences)、その他の発行事業

##### 【1】和文誌(岩石鉱物科学)編集報告（高澤和文誌編集幹事・委員長）

##### 1. 2024年8月24日 第3回定例理事会 和文誌編集報告

##### (1) 編集状況報告 (2024年5月20日～2024年8月24日現在)

##### 1) 発行状況: 53巻1号電子ジャーナル6編公開（以下、発行順）

- ・ 2022年度受賞記念研究紹介応用鉱物科学賞第15回受賞者「骨の再生医療：骨再生を可能にするセラミック系骨補填材の開発」杉浦 悠紀、小野 文子、野原 正勝、新津 甲大、齋藤 靖子
- ・ 日本新産鉱物情報「日本新産鉱物情報（2023年）」松原 聡
- ・ 総説 講義シリーズ「講義シリーズ「鉱物の物理」へ向けて」桂 智男
- ・ 総説 講義シリーズ「鉱物の物理その1：熱力学的性質」桂 智男
- ・ 博物館紹介「地質標本館と地質標本」森田 澄人
- ・ 原著論文「三重県竹原鉱山産ゼノタイムの化学組成とCHIME年代」坂野 靖行

53巻1号	件数	頁
原著論文	2件	22p
短報	0件	0p
総説	2件	15p
解説・資料	1件	9p
受賞記念研究紹介	5件	55p
鉱物の分析及び実験・解析のコツと勘どころ	0件	0p
最近の研究から	0件	0p
日本新産鉱物情報	1件	2p
博物館紹介	1件	3p
フィールド紹介	0件	0p
博士課程学生・若手研究紹介	1件	4p
訂正	0件	0p
	合計頁	110頁

- 2) 現在受理論文：2編（原著論文，受賞記念研究紹介）初校作成中
- 3) 現在査読中論文：3編（総説「講義シリーズ」，原著論文2編）

## 2. 2024年5月20日 第2回定例理事会 和文誌編集報告

### (1) 編集状況報告 (2023年12月14日～2024年5月20日現在)

- 1) 発行状況: 53巻1号電子ジャーナル7編公開
  - ・ 2022年度受賞記念研究紹介櫻井賞第46回受賞者「衝撃変成を受けた隕石中に発見された新鉱物：秋本石」富岡尚敬
  - ・ 2022年度受賞記念研究紹介日本鉱物科学会賞第28回受賞者「地球惑星内部物質の電気伝導度に基づく核及びマントルダイナミクスの研究」芳野 極
  - ・ 2022年度受賞記念研究紹介日本鉱物科学会研究奨励賞第33回受賞者「地質媒体における物質移動と岩石-水相互作用に関する研究」西山 直毅
  - ・ 2022年度受賞記念研究紹介日本鉱物科学会賞第27回受賞者「初期太陽系における分化天体の進化に関する鉱物科学的研究」山口 亮
  - ・ 博士課程学生・若手研究紹介「活動的大陸縁深部地殻における花崗岩質岩再熔融の記載岩石学的証拠：西南日本愛媛県梶島に分布する花崗岩類の例」下岡 和也，小北 康弘，齊藤 哲
  - ・ 解説・資料 2023年の地質鉱物関連英文ニュース誌の話題「鉱物資源，地域地質および花崗岩類」高橋 裕平
  - ・ 原著論文「チェコ共和国・ボヘミア地塊のZrcadlová Hut採石場に産する珪長質グラニュライトが経験した最高温度圧力条件」内藤 美桜，山根 健輔，中村 大輔
- 2) 現在受理論文：1編（受賞記念研究紹介）初校作成中
- 3) 現在査読中論文：5編（総説2編，受賞記念研究紹介1編，原著論文1編，博物館紹介1編）

## 3. 2023年12月14日 第1回臨時理事会 和文誌編集報告

### (1) 編集状況報告 (2023年9月16日～2023年12月14日現在)

- 1) 発行状況: 52巻1号電子ジャーナル3編公開
  - ・ 最近の研究から「マグマレオロジーの分子スケールでの理解：時分割放射光 X 線回折・散乱実験からのアプローチ」奥村 聡
  - ・ 日本新産鉱物情報「日本新産鉱物情報 (2022年)」松原 聡
  - ・ 鉱物の分析及び実験・解析のコツと勘どころ「表面形状観察のための高分解能走査電子顕微鏡法」小暮 敏博
- 2) 現在受理論文：1編（受賞記念研究紹介）2023年53巻 早期公開済み・初校作成中  
現在査読中論文：3編（総説-講義シリーズ2編，博士課程学生・若手研究紹介1編）

## 4. 2023年9月16日 第1回定例理事会 和文誌編集報告

### (1) 編集状況報告 (2023年8月24日～2023年9月16日現在)

- 1) 発行状況: 52巻1号電子ジャーナル2編公開
  - ・ 短報「茨城県桜川市山ノ尾ペグマタイト産モナズ石の化学組成とU-Th-Pb化学的年代」坂野 靖行
  - ・ 解説・資料「2022年の地質鉱物関連英文ニュース誌の話題「鉱物資源，鉱物学展望，および地域地質」」高橋 裕平
- 2) 現在受理論文：1編（最近の研究から）2023年52巻 早期公開済み・初校作成中
- 3) 現在査読中論文：2編（総説：1編 勘どころ：1編）

## [2] 英文誌 (JMPS) 編集報告 (M. Satish-Kumar英文誌幹事・理事)

### 1. 2024年8月24日 第3回定例理事会 英文誌編集報告

2024年5月20日第2回定例理事会報告以降の状況を以下の通り報告いたします。

#### (1) JMPS 現状報告

- 1) 投稿数状況：[参考: 表 1]

[表 1] WEB システム利用後の投稿数(2024年5月20日現在)

Month	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
Jan	0	3	2	2	5	2	4	7	5	5	1	1	7	5
Feb	0	2	2	1	2	2	0	2	1	0	0	1	4	5
Mar	0	2	0	4	2	2	7	3	1	1	5	5	6	3
Apr	0	2	3	1	5	3	12	5	5	3	1	1	5	4
May	0	4	0	3	5	4	3	4	3	1	0	2	1	5
Jun	0	12	6	9	4	3	5	2	3	2	0	3	4	3
Jul	0	3	3	8	9	12	9	6	6	5	2	3	3	4
Aug	0	5	2	1	7	1	2	2	12	3	5	2	3	1
Sep	3	2	1	4	5	2	2	4	2	3	4	5	2	0

Oct	16	14	11	16	9	3	4	3	10	2	0	3	4	0
Nov	2	5	4	4	5	8	9	18	5	8	2	6	2	0
Dec	3	3	2	6	5	2	4	2	5	2	6	13	7	0
	24	57	36	59	63	44	61	58	58	35	26	45	48	30

2) 編集状況：早期公開準備・印刷準備中：4件  
査読中：11件 返却中：12件

3) 発行状況：

- ・119巻1号電子ジャーナル  
原著論文14編 Letter3編 計157頁
- ・119巻ANTARCTICA号電子ジャーナル  
原著論文2編 計23頁

論文種類	件	Vol 119	件	Vol 118	件	Vol 117	件	Vol 116	件	Vol 115	件	Vol 114	件	Vol 113	件	Vol 112	件	Vol 111
Reviews	0	0p	2	24p	0	0p	0	0p	5	60 p		0 p			7	75 p	1	3p
Articles	17	165P	37	563p	10	123p	23	265p	33	406 p	23	242p	24	255 p	21	221p	30	396 p
Letters	3	15p	4	24p	4	23p	8	43p	2	12p	9	48p	9	49 p	12	60p	4	22p
Technical	0		0		1	10p	1	5p	1	5 p	1	11p	1	11 p				
Editorial	0		0		1	1p		1p		1 p		2p				1 p		1 p
Errata	0		0		0					1 p								1p
規程	0		0		0			3p		3 p		6p		4 p		6 p		4 p
Index	0		0		0			4p		4 p		4p		5 p		4 p		5 p
Contents	0		0					4p		5 p		4p		5 p		4 p		6 p
白頁	0		0					2p		3 p		1p		3 p		1 p		2 p
合計頁	19件	180p	43件	611p	16件	157 p		327 p		500 p		318 p		332 p		372 p		440 p
1号平均頁								54.5p		83.3 p		53 p		55.3 p		62 p		73.3p

4) 119巻1号(2024年) 2024年5月20日以降の電子ジャーナル公開状況

・119巻1号

掲載番号	公開日	論文種類	タイトル—著者名
009	May 24, 2024		Petrography and Rb-Sr mineral age of mafic dyke rock from Niban Iwa, Lützow-Holm Complex, East Antarctica Tomoharu MIYAMOTO, Katsuyuki YAMASHITA, Daniel J. DUNKLEY, Toshiaki TSUNOGAE, Mutsumi KATO
010	May 30, 2024		Grain growth of camphor as a rock analogue: microstructural development and grain growth law Junichi FUKUDA
011	June 12, 2024		Geochemistry of granulitic rocks from the western Madurai Block, Southern Granulite Terrain, India and its Madagascar linkage Asha P. Anu-Sha, Kalthilpambil R. Baiju, Kandathil A. Justine
012	June 13, 2024		Cathodoluminescence mineralogy of Ca-rich plagioclase in experimentally shocked Stillwater gabbro Rei KANEMARU, Akira YAMAGUCHI, Toshimori SEKINE, Naoya IMAE, Hirotsugu NISHIDO, Takamichi KOBAYASHI
013	June 17, 2024		Low reactivity of stoichiometric FeS with hydrogen at high-pressure and high-temperature conditions Masahiro TAKANO, Hiroyuki KAGI, Yuichiro MORI, Katsutoshi AOKI, Sho KAKIZAWA, Asami SANO-FURUKAWA, Riko IIZUKA-OKU, Taku TSUCHIYA
014	June 24, 2024		Characterization of the Oman ophiolite peridotites using the relationship between clinopyroxene Nd isotopic ratios and spinel compositions Masako YOSHIKAWA, Mohamed Zaki KHEDR, Akihiro TAMURA, Shoji ARAI
015	June 28, 2024		Development of high-speed X-ray imaging in multi-anvil press at the BL04B1 beamline in SPring-8 for falling sphere viscosity measurement on low viscous liquid at high pressure conditions Nozomi M. KONDO, Yoshio KONO, Steeve GRÉAUX, Yuji HIGO
016	July 30, 2024		Shiranuiite, Cu+(Rh3+Rh4+)S4, a new mineral in the thiospinel group from Kumamoto, Japan Daisuke NISHIO-HAMANE, Takahiro TANAKA, Tadashi SHINMACHI
017	August 21, 2024		Chemical composition, crystal structure and spontaneous polarization of swedenborgite Kei-ichiro MURAI, Akira YOSHIASA, Satoko ISHIMARU, Mayu YOSHIHARA, Ginga KITAHARA, Makoto TOKUDA, Hidetomo HONGU, Koichi MOMMA, Kazumasa SUGIYAMA

5) 2023 JMPS Impact Factor: 0.9

(2022⇒0.7, 2021⇒1.041, 2020⇒0.72, 2019⇒0.764, 2018⇒1.472, 2017⇒1.030, 2016⇒0.409, 2015⇒0.648, 2014⇒0.742, 2013⇒0.656, 2012⇒0.589)

2. 2024年5月20日 第2回定例理事会 英文誌編集報告

M. Satish-Kumar英文誌幹事より、編集状況について議事資料により報告がなされた。

1. JMPS現状報告

1) 投稿数状況：2022年下半期以降は、コロナの影響からの回復が進みつつある。

2) 編集状況：早期公開・印刷準備中；6件、査読中：13件、返却中：8件

3) 発行状況：

118巻1号 原著論文20編 Letter4編 Reviews2編 計302頁

118巻ANTARCTICA号 原著論文17編 計309頁

119巻1号 原著論文6編 Letter2編 計78頁

119巻ANTARCTICA号 原著論文2編 計23頁

完全電子ジャーナル化に伴いページ数が増えている。

特集号の提案をお願いしたい。

4) Impact Factorは6月に更新される。

3. 2023年12月14日 第1回臨時理事会 英文誌編集報告

M. Satish-Kumar英文誌幹事代理として、永井副委員長より、2023年9月16日第1回定例理事会報告以降の投稿、編集及び発行状況が議事資料に沿って報告された。

2023年投稿件数 42件

編集状況：早期公開準備・印刷準備中；2件、査読中：9件、返却中：6件

発行状況：

・ 118 巻1号 原著論文 20編 Letter 4編 Reviews 2編 計 321頁

・ 118 巻 ANTARCTICA号 原著論文 17編 計299頁

第1回定例理事会後の電子ジャーナル公開は、118巻1号 10件、ANTARCTICA号 6件

充実した特集号となった。皆さんreferをお願いしたい。また、奮って投稿をお願いしたい。

2022 JMPS Impact Factor: 0.7

(2021; 1.041, 2020; 0.72, 2019; 0.764, 2018; 1.472, 2017; 1.030, 2016; 0.409,

2015; 0.648, 2014; 0.742, 2013; 0.656, 2012; 0.589)

4. 2023年9月16日 第1回定例理事会 英文誌編集報告

M. Satish-Kumar英文誌幹事より、2022年度第3回定例理事会(2023年8月24日)報告以降の編集状況が議事資料に沿って報告された。

## (2) 総会, 講演会, 研究部会, その他学術に関する集会及び行事の開催事業

以下, 各幹事等からの報告は, 学会webページ掲載の理事会議事録を参照のこと.

### 【1】行事報告・年会報告(片山行事幹事)

#### 1. 第1回定例理事会 (2023年9月16日)

片山行事幹事より, 2023年年会の参加者数等の開催状況, ならびに2025年年会を山口大学にて開催する予定である旨が報告された.

続いて, 道林2024年LOC委員長より, 2024年年会の名古屋大学開催に向けて順調に準備が進んでいる旨報告された.

#### 2. 第1回臨時理事会 (2023年12月14日)

片山行事幹事より, 2023年年会会計最終結果ならびに年会開催ガイドラインの改訂について, 議事資料に沿って報告された.

2023年年会会計については, 昨年より参加者が約10%増となったこと, 施設利用料が少なかったこともあり, 30万円弱の黒字となった. 来年度は広告収入を増やすよう取り組みたい.

ガイドラインについては, マニュアル的な記載を整理した上, オンライン開催の取扱, 招待講演の設定, キャンセルへの対応, 受賞者の参加登録費などについて改訂した. また, 研究発表優秀賞に関するガイドラインについて, 報告先について改訂した.

理事からは, 広告展示, 学生と企業との交流会の案内など, 広告収入を増やすためにも連絡先リストを更新する必要がある旨発言があった. 広告費設定を含め, 行事委員会で検討, チェックの上で理事会に提示する予定である旨説明があった.

また, 非会員の招待講演者への支援について発言があり, ガイドラインとしてはこの文言で対応できると思われるが, 具体的な取扱については行事委員会で検討する旨説明があった.

#### 3. 第2回定例理事会 (2024年5月20日)

片山行事幹事より, 2024年年会(名古屋大学)の準備状況について以下の通り報告がなされた.

会告を4月下旬に行い, webページの公開を開始した.

形式は昨年と同様, 口頭発表は現地とオンラインのハイブリッド, ポスター発表は現地のみとする.

例年に加えスペシャルセッション1件, シンポジウムが追加され12セッションを開催する.

6月中旬発表募集, 8月プログラム編成へ向けて準備中

### 【2】広報報告(大藤広報幹事・理事)

#### 1. 第1回定例理事会 (2023年9月16日)

1) 年会での企業と学生会員交流会について

2) YMOラボツアーについて

#### 2. 第1回臨時理事会 (2023年12月14日)

1) 会員へのメールニュース送信

事務局の猪狩さんから会員向けにメールニュースを送信いただいた(2023年年会・総会以降, 2件: 2023年年会・総会の終了報告, 研究発表優秀賞の審査結果, JMPS特集号へのLetter原稿募集, Elementsのオンライン購読への変更について).

2) 学会新HP, SNSを通じた広報活動

新HPの更新対応は, 広報幹事の大藤と広報委員の浜田で随時対応できる体制をつくり, 主に事務局からの依頼を受けて情報掲載を行った(2023年年会・総会以降, 会員向け連絡2件, 公募情報14件, 関連学会情報2件, 新刊紹介2件). 更新に迅速に対応できる体制が整った.

英語版HPの拡充のため, 専用ページを追加した場合に必要な費用について(株)アクセライトに見積もりをお願いした. 英語ページ構築費として¥99,000の見積もりを得ている.

3) 地学オリンピック「地球にわくわく未来ガイド」への広告原稿提出

地学オリンピック参加者へ配布する冊子「地球にわくわく未来ガイド」に日本鉱物科学会の紹介広告(A4・1ページ)の原稿を提出した(学協会の広告掲載は無料).

4) 科学技術振興機構(JST)発行のWebマガジン「Science Window」の特集号(来年度発行)で, 「鉱物」を含めた一家に1枚ポスターを紹介する予定との連絡があった.

英語ページの整備については, JMPSへの投稿促進にも繋がると考えられるので, 現在の会計状況でも先行投資として支出可能ではないかとの意見が出された. 作成範囲, 方法を精査し, 見通しが確定した上で, 改めて理事会に諮ることが確認された.

#### 3. 第2回定例理事会 (2024年5月20日)

1) 会員へのML送信

事務局の猪狩さんから会員向けにメールニュースを送信いただいた. 2023年年会・総会以降, 10件: 2023年年会・総会の終了報告, 研究発表優秀賞の審査結果, JMPS特集号へのLetter原稿募集, Elementsのオンライン購読への変更について

て、各賞受賞候補者募集推薦のお知らせ、2024年年会スペシャルセッション募集のお知らせ、次期役員候補者推薦のお願いなど。

## 2) 学会新HPと公式SNS (Facebook, twitter), YouTubeを通じた広報活動.

新ホームページに学会連絡や年会情報、公募情報、関連学会情報、新刊紹介などを掲載した。公式SNSについては、フォロワーに一般の方が多く含まれるという状況を考慮し、HPで周知する学会事務連絡や公募情報などは掲載せず、一般向け周知にふさわしい内容のものに限って発信をしてゆく方針での運用としている。また会員関係者から依頼のあった周知情報の発信を行った(催し・お知らせ1件ほか)。YouTubeチャンネルでの公開動画も徐々に増え、視聴回数も上昇中(2024/5/20現在の視聴回数:「岩石を切ってみよう」7,555回、「教えて!シリーズ第4弾 鉱物の定義編」4,859回など)。今後も新たな動画を配信予定。

## 3) 地学オリンピック「地球にわくわく未来ガイド」への広告掲載

地学オリンピック参加者へ配布する冊子「地球にわくわく未来ガイド」に日本鉱物科学会の紹介広告を掲載した。

## 4) JpGU2024における現地ブース展示

日本地球惑星科学連合2024年大会JpGU2024(幕張)において、昨年に続き現地ブース展示を行う予定。クイズラリーにも参加し、景品としてヒスイとスピネルを提供。

## 5) 「鉱物・宝石の疑問50」の編集委員会の設置

成山堂書店より出版依頼のあった「みんなが知りたいシリーズ 鉱物・宝石の疑問50」の編集委員会(暫定、宮脇(代表)、井上、北脇、大藤、永嶋)の立ち上げと執筆方針・スケジュールの確認などを3月4日にZOOMで行った。近く執筆者の素案を検討し、6月以降執筆依頼を行う予定。

## 【3】 渉外報告 (永嶋渉外幹事・理事)

モンゴル資源地質学会と一般社団法人日本鉱物科学会との学術交流協定が大和田会長らの尽力により延長の運びとなり、本定時総会後に調印式を執り行う。

## 【4】 Elements報告 (瀬戸Elements幹事、大和田会長、井上副会長)

Executive meeting 報告等の活動報告が大和田会長宛てに定期的に届いている。Elements誌は一次の順調に発行とオンライン化が進み、発行遅れは回復しつつある。また、単価は当面据え置きとなっている。JAMS会員についても、オンライン配信(冊子体郵送の廃止)や講読の辞退が選択できるようになっている。

Society newsについては、受賞者紹介を含め順調に原稿が届いている。

## (3) 研究の奨励及び業績の表彰 (磯部庶務幹事・理事)

### 【1】 2023年度日本鉱物科学会賞表彰

第29回受賞者: 橘 省吾 会員 (東京大学大学院理学系研究科宇宙惑星科学機構・地球惑星科学専攻)

業績題目「初期太陽系における惑星材料物質の化学進化に関する実験的研究」

第30回受賞者

氏名: 土屋 範芳 会員 (八戸工業高等専門学校・東北大学名誉教授)

業績題目「岩石-水相互作用に関する研究」

### 【2】 渡邊萬次郎賞表彰

第40回受賞者: 松原 聰 会員

### 【3】 2023年度日本鉱物科学会論文賞表彰

第27回受賞論文

Title: Petrogenesis of Oligocene to Miocene volcanic rocks from the Toyama basin of the SW Japan arc: Temporal change of arc volcanism during the back-arc spreading in the Japan Sea. 118:026 (2023)

Authors: Raiki Yamada, Toshiro Takahashi, Yasuhiro Ogita

受賞者: 山田 来樹 会員, 高橋 俊郎 会員, 小北 康弘 会員

### 【4】 2023年度日本鉱物科学会研究奨励賞表彰

第35回受賞者: 石井 貴之 会員 (岡山大学惑星物質研究所)

研究対象: 高温高压実験技術の開発とマントル鉱物の相平衡関係・結晶化学の研究

第36回受賞者: 松本 恵 会員 (東北大学理学研究科)

研究対象: 放射光X線CTと電子顕微鏡による始原的隕石・地球外リターンサンプル試料分析

### 【5】 2023年度日本鉱物科学会応用鉱物科学賞表彰

第16回受賞者: 上杉 健太朗 氏 (公益財団法人高輝度光科学研究センター)

業績題目: SPring-8における放射光を用いたX線CT装置をはじめとするX線イメージング装置の開発と鉱物科学への応用

## 【6】櫻井賞表彰

該当なし

## 【7】2023年度JMPS学生論文賞受賞論文表彰

第17回受賞論文：Petrogenesis of Oligocene to Miocene volcanic rocks from the Toyama basin of the SW Japan arc: Temporal change of arc volcanism during the back-arc spreading in the Japan Sea. JMPS v.118, 026,(26p.) 2023  
Authors: Raiki YAMADA, Toshiro TAKAHASHI, Yasuhiro OGITA  
受賞者：山田 来樹 会員（投稿時：新潟大学・博3在学）

## 【8】2023年年会研究発表優秀賞表彰

第66回受賞者：横井 雅範（京都大学大学院理学研究科）  
S2-06 沈み込み帯における含ホウ素流体-岩石相互作用の時期：三波川変成帯の例  
第67回受賞者：鈴木 哲士（山形大学大学院理工学研究科）  
R6P-03 アダカイト質マグマの大陸地殻浅部への貫入・定置機構：北上山地，堺ノ神深成岩体を例として  
第68回受賞者：三津川 到（京都大学大学院理学研究科）  
R7-04 タヒチ島産マントル捕獲岩中の多環芳香族を含む包有物に対するX線吸収端近傍構造解析  
第69回受賞者：原田 浩伸（東北大学大学院理学研究科）  
R8-01 四国中央部三波川帯の泥質片岩に産するフェンジャイトの微量元素・ストロンチウム同位体地球化学

## （4）本会の目的を達成するために必要な事業

### 【1】庶務報告（磯部庶務幹事・理事）

- 1) 2023年度幹事会，理事会開催，準備，調整，監査立ち合い  
（日時調整，議題作成，議事録作成，総会招集通知資料作成，発送，総会議事録作成，理事会会場準備，ZOOM会議準備）  
第1回定例理事会ハイブリッド開催：2023年 9月16日(土) 15:30～16:49：大阪公立大学杉本キャンパス 全学共通教育研究棟2階 822室  
第1回臨時理事会ZOOM開催：2023年12月14日(木)18:00-19:35：山口大学理学部 大和田研究室  
第2回定例理事会ZOOM開催：2024年 5月20日(月)17:00-18:57：山口大学理学部 大和田研究室  
第3回定例理事会ZOOM開催：2024年 8月24日(土)15:00-17:30：山口大学理学部 大和田研究室  
一般社団法人日本鉱物科学会監査立ち合い：2024年 8月22日(木)10:00-11:00 於：日本鉱物科学会事務局  
2023年度定時総会ハイブリッド開催：2024年9月13日(金)14:00-15:15 於：名古屋大学 東山キャンパス ES総合館 ESホール
- 2) 連合への各種対応
- 3) 後援，共催，協賛の承諾
- 4) 会員への連絡
- 5) 表彰に関する件：令和6年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞，若手科学者賞および研究支援賞受賞候補者の学会内推薦について周知した。本年度は推薦なし。
- 6) 一般社団法人定時社員総会「招集通知」の電磁的方法(メール等)採用への同意お願い
- 7) 一社)日本鉱物科学会2023年度定時総会（2024/09/13開催）の事前お知らせ
- 8) 理事会，総会の開催準備 召集，資料作成，議事録作成
- 9) 事務局管理  
学会事務局業務を委託している小宮山印刷工業（株）仙台営業所との間で逐次連絡を取り，対応を進めている。  
GKKおよびJMPS編集業務，会員管理システム運用を含め，円滑に遂行している。
- 10) 法人役員任期満了に係わる次期役員選出
- 11) 2023年度 役員 各委員会委員報告

<理事(22名)，監事(1名)>

会長(代表理事)：大和田正明，副会長(代表理事)：井上 徹  
理事：阿部なつ江，池田 剛，磯部博志，大藤弘明，鍵 裕之，亀井淳志，川本竜彦，河上哲生，興野 純，栗林貴弘，黒澤正紀，高澤栄一，辻森 樹，土屋範芳，富岡尚敬，永井隆哉，永嶋真理子，坂野靖行，M.Satish-Kumar，三宅 亮  
監事：下林典正

<幹事会>

会長：大和田正明，副会長：井上 徹，庶務幹事：磯部博志(理事)，会員幹事：阿部なつ江(理事)，会計幹事：富岡尚敬(理事)，行事幹事：片山郁夫，和文誌編集幹事：高澤栄一，英文誌編集幹事：M.Satish-Kumar(理事)，渉外幹事：永嶋真理子(理事)，広報幹事：大藤弘明(理事)，Elements: 瀬戸雄介，特務幹事(細則等検討担当)：井上 徹(理事)，地球惑星科学連合2022年度学会選出プログラム委員：西原 遊(正)・福土圭介(副)，地惑連合連絡担当：阿部なつ江(理事)，三鉱連絡委員：磯部博志，片山郁夫

<行事委員会>

委員長：片山郁夫(行事幹事)，副委員長：瀬戸雄介  
委員：越後拓也，寺崎英紀，湯口貴史，吉村俊平，額綱佑衣

<岩石鉱物科学編集委員会>

委員長：高澤栄一(和文誌編集幹事)，副委員長：興野 純  
委員：秋澤紀克，阿部なつ江，江島輝美，遠藤俊祐，大藤弘明，川畑 博，久保友明，栗谷 豪，栗林貴弘，近藤 忠，  
齊藤 哲，下林典正，鈴木庸平，中村美千彦，永瀧真理子，野口高明，伴 雅雄，坂野靖行，東野文子，星出隆  
志，三宅 亮，宮原正明，門馬綱一，塚本尚義

<JMPS編集委員会>

委員長：M. Satish-Kumar (英文誌編集幹事，理事)，副委員長：永井隆哉，河上哲生，門馬綱一  
委員：伴 雅雄，Kaushik Das，濱田麻希，福山繭子，市山祐二，加藤丈典，河野元治，額綱佑衣，小木曾哲，栗林貴弘，  
興野 純，三河内岳，永瀧真理子，大藤弘明，奥寺浩樹，篠田圭司，下林典正，隅田祥光，角替敏昭，宇都宮聡，  
吉村俊平，Dr. Betchaida D. Payot, Prof. Sajeev Krishnan, Dr. Sujoy K. Ghosh, Prof. Peng Peng, Prof. Luca Bindi, Dr.  
Stuart J. Mills, Dr. Dan Dunkley

<渉外委員会>

委員長：永瀧真理子(渉外幹事・理事)  
委員：宇都宮聡(環境)，川添貴章(高圧)，栗谷 豪(火山)，辻森 樹(地質)，森下知晃(岩石)

<広報委員会>

委員長：大藤弘明(広報幹事・理事) (HP担当)，  
委員：齊藤 哲 (JpGUブース展示担当)，石橋秀巳 (Twitter担当)，浜田麻希 (Facebook担当)，延寿里美 (Youtube担当)，  
磯部博志 (庶務幹事)

<Elements 委員会>

委員長：瀬戸 雄介 (Elements幹事)，副委員長：東野文子  
委員：宇都宮聡，奥村 聡，片山郁夫，興野 純，小松一生，新名良介，橋 省吾，寺崎英紀，  
中野伸彦，門馬綱一，横山 正 (サイエンスボード)

Society News Editor：瀬戸 雄介

Executive Committee Member：大和田正明(会長)

学会役職指定委員：磯部博志(庶務)，高澤栄一(GKK)，M. Satish-Kumar(JMPS)，片山郁夫(行事)，永瀧真理子(渉外)，大  
藤弘明(広報)

<将来企画委員会>

委員長：井上 徹(副会長)，副委員長：大藤弘明  
委員：森下知晃，阿部なつ江，鍵 裕之，中村美千彦，河上哲生，中野伸彦，永瀧真理子  
諮問に関係する幹事：磯部博志 (庶務幹事)，栗林貴弘 (会計幹事)，高澤栄一 (和文誌編集幹事)，M.Satish-Kumar (英  
文誌編集幹事)  
オブザーバー：大和田正明(会長)

<細則等検討委員会>

委員長：井上 徹 (特務幹事細則等検討担当)  
委員：角替敏昭，川本 竜彦，亀井淳志，黒澤正紀

<新鉱物・命名・分類委員会>

委員長：門馬綱一  
委員：上原誠一郎，小林祥一，清水正明，白勢洋平，浜根大輔，坂野靖行，豊 遙秋，松原 聡，宮脇律郎

<教育普及委員会>

委員長：林信太郎，委員：貴治康夫，宮嶋 敏，川手新一，川本竜彦

<博物館委員会>

委員長：坂野靖行，委員：宮脇律郎，森 康，三河内 岳，上原誠一郎，小河原 孝彦

<防災教育担当委員>

林信太郎

<日本鉱物科学会賞選考委員会>

委員長：桂 智男，副委員長：野口 高明  
委員：野口高明，阿部なつ江(理事)，磯部博志(理事)，海野 進，額綱 佑衣，境 毅，杉浦 悠紀，田阪 美樹，中野 伸  
彦，大和田正明(会長)

<渡邊萬次郎賞選考委員会>

委員長：永井隆哉 副委員長：土屋範芳  
委員：(2期目継続委員4名)：永井隆哉，鍵 裕之(理事)，坂野靖行(理事)，永瀧真理子(理事)

(1期目委員4名委員長指名)：土屋範芳(理事)，小山内康人，黒澤正紀(理事)，宮脇律郎

<日本鉱物科学会論文賞選考委員会>

委員長：佐野亜沙美 副委員長：星出隆志

委員：(2期目継続委員5名)：佐野亜沙美(副委員長)，秋澤紀克，遠藤俊祐，斎藤哲，三宅亮(理事)

(1期目委員5名委員長指名)：星出隆志，永嶋真理子(理事)，水上知行，宮原正明，湯口貴史

<日本鉱物科学会研究奨励賞選考委員会>

委員長：片山郁夫 副委員長：佐久間 博

委員：(2期目継続委員5名)：片山郁夫，富岡尚敬(理事)，亀井淳志(理事)，川野 潤，瀬戸雄介

(1期目委員5名委員長指名)：佐久間 博，市山 祐司，川添 貴章，小松 一生，中野 伸彦

<日本鉱物科学会応用鉱物科学賞選考委員会>

委員長：池田 進 副委員長：門馬綱一

委員：(2期目継続委員5名)：池田 進，奥寺浩樹，川野 潤，中塚晃彦，森本和也

(1期目委員5名委員長指名)：門馬綱一，岡本 敦，黒澤正紀(理事)，杉浦悠紀，三宅 亮(理事)

<櫻井賞選考委員会>

委員長：松原 聰 委員：清水正明，坂野靖行，宮島 宏，宮脇律郎

<研究発表優秀賞選考委員会>

1期目委員：松本 徹(副委員長)，西山直毅，永治 方敬，安武正展，瀨田麻希

2期目委員：秋澤紀克(委員長)，北野一平\*，延寿聡美，松本恵，苗村康輔

(2期目委員任期：2024年9月14日まで；\*北野委員は2023年度第3回理事会で承認)

<2024年年会運営委員会>

委員長：道林克禎

委員：瀨瀬佑衣，加藤丈典，丹羽健文，丹羽美春

片山郁夫行事委員会委員長，瀬戸雄介行事委員会副委員長

<2025年年会運営委員会>

委員長：大和田正明

委員：永嶋真理子，江島圭祐，太田岳洋，志村俊昭

片山郁夫行事委員会委員長，瀬戸雄介行事委員会副委員長

<会長・副会長推薦委員会>

阿部なつ江(理事)，永井隆哉(理事)，鍵 裕之(理事)，興野 純(理事)，伴 雅雄

<選挙管理委員会>

委員：遠藤俊祐，伊神洋平，横山 正

<名誉会員推薦委員会>

委員長：中村美千彦

委員：大和田正明，鍵 裕之，富岡尚敬，宮脇律郎

12) 2023年度定時総会についての第3回定例理事会(2024年8月24日) 審議事項

1. 日時：2024年9月13日(金) 14:00-15:15

場所：名古屋大学 東山キャンパス ES総合館 ESホール

- ・現地出席者は会場にてZOOM画面スクリーン投影も見る。
- ・現地出席以外の理事・監事・幹事を含む報告者は，説明義務があるのでZOOMで出席する。
- ・現地出席以外の総会出席予定の会員は， ZOOM Meetingで出席する。
- ・欠席予定者には，代理人によってその議決権を行使する委任状又は書面による議決権の行使を通知する。

2. 社員総会の目的事項(報告事項，決議事項)について

(1) 2024年度一般社団法人第9期事業計画紹介(大和田会長)

(2) 総会の報告事項，決議事項について(2023年度総会資料 決算及び事業報告)(磯部庶務幹事)

目的事項

報告事項

I. 2023年度(一般社団法人第8期)事業報告(和文誌，英文誌編集，行事，広報，渉外，庶務Elements，会員，その他)

II. 2024年度(一般社団法人第9期)事業計画書及び収支予算などの件

III. その他

決議事項

I. 第1号議案 2023年度(一般社団法人第7期)事業報告，決算承認の件

II. 第2号議案 役員(理事，監事)選任の件

資料: 2023年度定時総会資料 決算及び事業報告

1. 2024年度収支予算
2. 2023年度決算報告 1)貸借対照表 2)正味財産増減計算書 3)財務諸表に対する注記 4)附属明細書
3. 監査報告書

協定調印式

モンゴル資源地質学会と一般社団法人日本鉱物科学会との学術交流協定延長調印式

授賞式

- |                  |                    |                |
|------------------|--------------------|----------------|
| 一、日本鉱物科学会賞授与     | 一、渡邊萬次郎賞授与         | 一、日本鉱物科学会論文賞授与 |
| 一、日本鉱物科学会研究奨励賞授与 | 一、日本鉱物科学会応用鉱物科学賞授与 | 一、JMPS学生論文賞授与  |

## 【2】 将来企画委員会報告

### 1. 第1回定例理事会 (2023年9月16日)

井上委員長ならびに阿部会員幹事より、9月14日に開催された将来企画委員会での議論について報告された。科研費申請、寄附金、学生会員会費バック、会員増に向けた学会ホームページ整備、女子中高生向けアウトリーチ活動の検討状況等について主に議論された旨報告された。また、大藤広報幹事より、年会プログラム編成の柔軟化のため、ガイドラインの改正が必要ではないかとの発言があり、片山行事幹事より、年会開催のためのガイドラインの改訂を進めている旨報告があった。

### 2. 第2回定例理事会 (2024年5月20日)

科研費研究成果公開促進費 国際情報発信強化への申請は不採択であった。次回も申請を行いたいので、JMPS編集委員会等に協力をお願いしたい  
審査員からIFが低いことが指摘された。

コメント

IFの上昇には、外部への発信を強化するなどの抜本的対策の必要があるのでは。  
2026JpGUはAGUとのジョイントとなる。宣伝機会として活用できるのでは。

## 【3】 JpGU 2022年学会選出プログラム委員報告 (西原委員長)

### 1. 第1回臨時理事会 (2023年12月14日)

12月5日に開催されたJpGU学協会長会議に、磯部庶務幹事が大和田会長代理として出席した。学術会議との関係等について議論された。学協会セッションとして、鉱物科学会提案のセッションが例年通り開催される。

## 【4】 学術会議・IMA小委員会報告 (土屋学術会議連携会員)

### 1. 第1回臨時理事会 (2023年12月14日)

日本学術会議第26期が10月に始まった。IMA小委員会の委員も交代したため、12月1日に開催して新委員長を決定した。土屋委員長、大藤副委員長、永嶋幹事が就任した。

2024年8月アイルランド、ダブリンでのIMA business meetingでcouncilの投票が行われる。日本から参加する方を募る必要がある。

IMA小委員会の活動と鉱物科学会の活動の連携を深めて行きたい。

### 2. 第2回定例理事会 (2024年5月20日)

5月14日にIMA小委員会を開催した。

IUGS geological heritage site へIMAからも申請することが提案され、情報収集することとなっている。

IMA報告 secretary辞任により大藤会員が暫定secretaryに就任した。

ダブリンbusiness meetingに参加し、評議員改選に投票する

JAMSウェブサイトIMA小委員会議事次第等掲載されている。

## 【5】 教育普及委員会報告 (林信太郎委員長)

### 1. 第2回定例理事会 (2024年5月20日)

中学校理科鉱物名統一について 高校理科教科書記述を含め検討を継続中。

学習指導要領改訂について 高校必修科目として理科総合が設置される可能性がある。意見照会への対応を準備中。

【6】博物館委員会報告（坂野委員長）

第3回定例理事会（2024年8月24日）

- 1) 11月，4月，6月，8月開催のIMA博物館委員会（IMA-CM）web会議報告  
 8月英国開催の国際会議M&M10の最新情報を共有。EMCと連続する形としたがこれまでよりも参加者が少ない。2026年に向けたIMA-CMのboard member人事（3名）を進めている。タイプ標本プロジェクト・標本調製の開示（業者による標本の加熱問題）・研究用標本コレクション・鉱物コレクションのデジタル化が議論された。
- 2) IMA-CMのweb会議報告を各委員に送り情報共有を行なった。JAMS博物館委員会のあり方について名古屋大会時に新委員候補も交えて意見交換を行う予定。

【7】JpGU連絡担当報告（阿部理事）

- 1) 2026年5月JpGU大会は、AGUとのJoint Meetingの予定。基本的に全てのセッションがJointセッションという位置付け。2025年大会も含めて、Joint Meetingを見据えた様々な準備を進めている。
- 2) 大会時のアルバイトや、JpGU事務局への理不尽な要求・ハラスメント事案が報告されているが、断固として許さないという姿勢で対応を検討している。

【8】会員報告（阿部会員幹事・理事）

1. 2024年8月24日第3回定例理事会報告

会員数の推移

813名(2024/5/20現在) - 1(物故) - 20(退会) + 52(8/24入会承認) = 846人(2024/8/24現在)

過去会員推移										2024年8月24日まで										
	2007 9/20	2008 9/21	2009 9/9	2010 9/23	2011 9/8	2012 9/19	2013 9/11	2014 9/18	2015 9/25	2016 9/24	2017 8/12	2017 9/12	2018 9/3	2019 8/2	2020 8/29	2021 8/28	2022 8/24	2023 9/16	2024 5/20	2024 8/24
一般会員(R)	892	886	865	846	840	702	686	672	652	628	598	602	583	565	554	541	524	503	517	523
シニア会員(RS)						139	142	148	154	171	175	175	178	175	176	172	168	168	165	161
学生会員(S)	78	76	78	68	88	103	94	87	88	83	81	83	84	90	72	88	78	99	86	115
永年会員(L)	39	36	33	37	39	37	40	41	36	34	35	35	35	36	32	32	28	39	36	38
名誉会員(H)	11	9	9	7	7	7	6	6	13	13	17	17	16	14	10	9	11	10	9	9
会員合計	1020	1009	985	958	974	988	968	954	943	929	906	912	896	880	844	842	809	819	813	846

## Ⅱ. 2024年度（一般社団法人第9期）事業計画書及び収支予算案などの件

### 1. 2024年度事業計画紹介（大和田会長）

以下の本会の事業を第9期も継続して行ってまいります。

編集事業：岩石鉱物科学，Journal of Mineralogical and Petrological Sciencesの発行

行事事業：2025年年会(山口大学)の開催と2024年度定時社員総会の開催，一般普及講演，各賞の表彰事業

その他本会の目的を達成するために必要な事業

また，この1年間，執行部，理事は，学会事業の見直しを検討し，事務局と役員業務の改革を検討し，会員の皆様にお示したところです。第9期では，新執行部，理事，幹事により学会事業の見直しをさらに進め，学術活動に専念できる体制を固め，会員のみなさん，社会にも貢献する体制を拡充して参りたいと思います。

### 2. 2024年度収支予算紹介（富岡会計幹事）

2024年8月24日に開催された第3回定例理事会にて，2024年度会計収支予算が承認されましたので紹介します。

## Ⅲ. その他

一般社団法人日本鉱物科学会2024年度 会計収支予算 理事会承認 2024年8月1日から2025年7月31日まで	
科目	2024年度予算
<b>経常収益</b>	
会費収入	6,678,000
一般会員	4,707,000
シニア会員	1,061,000
学生会員	452,000
賛助会員	280,000
前年度分会費	178,000
出版物収入	2,045,000
和文誌（GKK）収入	125,000
英文誌（JMPS）収入	1,920,000
バックナンバーその他	0
広告収入	0
年会収入	2,700,000
特定資産組入金	63,114
雑収入	100,000
経常収益計	11,586,114
前年度繰越金	6,867,793
経常収入合計	18,453,907
特定資産前年度繰越金	5,168,025
学会誌等刊行基金	3,477,132
学会賞・奨励賞・論文賞基金	0
渡邊萬次郎賞基金	43,269
国際学会・年会基金	1,647,624
収入合計	23,621,932
科目	2024年度予算案
<b>経常費用</b>	
刊行費	3,604,300
GKK電子ジャーナル費	658,000
GKK編集委託費	247,500
JMPS電子ジャーナル費	1,568,000
JMPS編集委託費	1,064,800
J-Stage-EM利用料	66,000
集会費	2,750,000
年会開催費	2,700,000
会議費	50,000
学会賞副賞	330,500
鉱物学会賞記念品費	100,000
研究奨励賞記念品	40,000
応用鉱物科学賞	20,000
論文賞記念品	8,500
渡邊萬次郎賞記念品	5,000
受賞者支援金	157,000
Elements購読会費	1,780,000
管理費	3,411,000
支払報酬料	500,000
租税公課	3,000
法人税、住民税及び事業税	100,000
事務局委託費	1,400,000
会員システム(SMOOSY)利用料	528,000
臨時雇賃金	50,000
旅費交通費出張費	0
水道光熱費	25,000
地代家賃	70,000
通信費電話回線料	145,000
HP管理維持費	130,000
通信費郵送料	60,000
送金・支払手数料	220,000
消耗品費	70,000
支払寄付金（地学オリンピック）	50,000
雑費	60,000
経常費用計	11,875,800
繰越金取崩	289,686
次年度繰越金合計	11,746,132
支出合計	23,621,932

## 決議事項

### I. 第1号議案 2023年度（一般社団法人第8期）事業報告，決算承認の件

（大和田会長 説明：富岡会計幹事， 監査報告：下林監事）

上記に記載しました2023年度事業報告に続き，以下の決算についての説明をいたします。その後，監査報告をいたしますので，事業報告と決算について，ご審議をお願いします。

#### 1. 2023年度（一般社団法人第8期）決算について（説明：富岡会計幹事）

##### (1) 貸借対照表

### 貸借対照表

令和6年7月31日現在

一般社団法人日本鉱物科学会

（単位：円）

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	5,602,133	4,730,109	872,024
未収金	0	1,531	△ 1,531
前払費用	1,573,160	1,639,653	△ 66,493
流動資産合計	7,175,293	6,371,293	804,000
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
学会賞等刊行基金	3,477,132	3,477,108	24
学会賞・奨励賞・論文賞基金	63,114	381,691	△ 318,577
渡邊萬次郎賞基金	43,269	48,054	△ 4,785
国際学会・年会基金	1,647,624	1,698,490	△ 50,866
特定資産合計	5,231,139	5,605,343	△ 374,204
固定資産合計	5,231,139	5,605,343	△ 374,204
資産合計	12,406,432	11,976,636	429,796
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金	0	527,670	△ 527,670
前受会費	235,500	274,500	△ 39,000
未払法人税等	72,000	94,200	△ 22,200
流動負債合計	307,500	896,370	△ 588,870
負債合計	307,500	896,370	△ 588,870
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
（うち特定資産への充当額）	12,098,932	11,080,266	1,018,666
（うち特定資産への充当額）	(5,231,139)	(5,605,343)	(△ 374,204)
正味財産合計	12,098,932	11,080,266	1,018,666
負債及び正味財産合計	12,406,432	11,976,636	429,796

## (2) 正味財産増減計算書

## 正味財産増減計算書

令和 5年 8月 1日から令和 6年 7月31日まで

一般社団法人日本鉱物科学会

(単位: 円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
会費収入	6,581,256	6,460,500	120,756
一般会員	4,559,500	4,494,500	65,000
学生会員	340,000	309,000	31,000
シニア会員	1,086,500	1,076,500	10,000
賛助会員	277,256	260,000	17,256
前年度分会費	318,000	320,500	△ 2,500
出版物収入	3,865,017	1,824,602	2,040,415
和文誌(GKK)収入	55,000	48,500	6,500
英文誌(JMPS)収入	3,810,017	1,776,102	2,033,915
広告収入	0	50,000	△ 50,000
年会収入	2,673,000	3,237,036	△ 564,036
参加費	1,693,500	1,593,500	100,000
懇親会費	744,000	423,000	321,000
展示料収入	170,000	0	170,000
受取助成金	0	1,220,536	△ 1,220,536
その他収入	65,500	0	65,500
受取寄附金	29,103	0	29,103
雑収入	137,127	164,773	△ 27,646
著作権料収入	122,813	146,911	△ 24,098
受取利息	90	82	8
編集作業収入	14,224	17,780	△ 3,556
経常収益計	13,285,503	11,736,911	1,548,592
(2) 経常費用			
刊行費	4,189,570	2,304,577	1,884,993
GKK電子ジャーナル費	571,780	471,240	100,540
GKK編集委託費	384,010	86,020	297,990
JMPS電子ジャーナル費	1,963,390	1,228,315	735,075
JMPS編集委託費	1,204,390	441,650	762,740
支払リース料	0	11,352	△ 11,352
J-Stage-EM利用料	66,000	66,000	0
集会費	2,416,590	3,329,065	△ 912,475
年会開催費	2,406,590	3,253,136	△ 846,546
会議費	10,000	75,929	△ 65,929
学会賞副賞	323,365	170,500	152,865
鉱物学会賞記念品費	100,880	35,000	65,880
研究奨励賞記念品	40,000	40,000	0
応用鉱物科学賞記念品	21,650	20,770	880
論文賞記念品	0	15,464	△ 15,464
受賞者懇親会費	48,000	0	48,000
受賞者参加費	8,050	0	8,050
渡邊萬次郎賞記念品	4,785	35,115	△ 30,330
発表賞支援金	100,000	24,151	75,849
Elements購読会費	1,742,428	1,715,399	27,029
管理費	3,522,884	4,497,843	△ 974,959
支払報酬料	385,550	483,832	△ 98,282
租税公課	0	2,100	△ 2,100
給料手当	0	2,323,966	△ 2,323,966
法定福利費	0	194,183	△ 194,183
旅費交通費通勤手当	0	146,480	△ 146,480
事務局委託費	1,699,280	0	1,699,280
会員システム利用料	528,000	176,000	352,000
臨時雇賃金	24,000	28,500	△ 4,500
旅費交通費出張費	0	53,040	△ 53,040
水道光熱費	24,792	23,214	1,578
地代家賃	63,009	63,009	0
通信運搬費	301,529	212,448	89,081
支払手数料	220,155	137,078	83,077
消耗品費	74,614	138,993	△ 64,379
ホームページ管理維持費	111,100	451,000	△ 339,900
支払寄付金	50,880	50,000	880
雑費	39,975	14,000	25,975
経常費用計	12,194,837	12,017,384	177,453
評価損益等調整前当期経常増減額	1,090,666	△ 280,473	1,371,139
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	1,090,666	△ 280,473	1,371,139
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前一般正味財産増減額	1,090,666	△ 280,473	1,371,139
法人税、住民税及び事業税	72,000	94,200	△ 22,200
当期一般正味財産増減額	1,018,666	△ 374,673	1,393,339
一般正味財産期首残高	11,080,266	11,454,939	△ 374,673
一般正味財産期末残高	12,098,932	11,080,266	1,018,666
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
II 正味財産期末残高	12,098,932	11,080,266	1,018,666

### (3) 財務諸表に対する注記

#### 財務諸表に対する注記

一般社団法人日本鉱物科学会

#### 1. 重要な会計方針

##### (1) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税込方式によっている。

#### 2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
学会賞等刊行基金	3,477,108	24	0	3,477,132
学会賞・奨励賞・論文賞基金	381,691	3	318,580	63,114
渡邊萬次郎賞基金	48,054	0	4,785	43,269
国際学会・年会基金	1,698,490	14	50,880	1,647,624
小 計	5,605,343	41	374,245	5,231,139
合 計	5,605,343	41	374,245	5,231,139

#### 3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
特定資産				
学会賞等刊行基金	3,477,132	(0)	(3,477,132)	(0)
学会賞・奨励賞・論文賞基金	63,114	(0)	(63,114)	(0)
渡邊萬次郎賞基金	43,269	(0)	(43,269)	(0)
国際学会・年会基金	1,647,624	(0)	(1,647,624)	(0)
小 計	5,231,139	(0)	(5,231,139)	(0)
合 計	5,231,139	(0)	(5,231,139)	(0)

### (4) 附属明細書

#### 附属明細書

一般社団法人日本鉱物科学会

#### 1. 特定資産の明細

特定資産については財務諸表に対する注記に記載しているため、附属明細書での記載を省略している。

#### 2. 引当金の明細

該当なし。


#### 2. 監査報告（下林監事）

次頁の監査報告書の通り。

# 監査報告書

令和6年(2024年)8月22日

一般社団法人日本鉱物科学会  
代表理事(会長) 大和田 正明 殿  
代表理事(副会長) 井上 徹 殿

一般社団法人日本鉱物科学会  
監事 下林 典正 

私監事は、2023年(令和5年)8月1日から2024年(令和6年)7月31日までの一般社団法人日本鉱物科学会第8期事業年度における会計及び業務の監査を行いました。  
その結果につき次の通り報告します。

## 1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査については、帳簿及び関係書類の閲覧等必要と認められる監査手続きを用いて計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及びその付属明細書の適正性を検討しました。
- (2) 業務監査については、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の方向を聴取し、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて、理事の業務執行の妥当性を検討しました。

## 2. 監査意見

- (1) 計算書類及び付属明細書は、一般社団法人日本鉱物科学会の財政及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。
- (2) 事業報告書は、法令及び定款に従い一般社団法人日本鉱物科学会の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 理事の業務の執行に関し、不正な行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

以上

## II. 第2号議案 役員（理事，監事）選任の件

（選挙管理委員会委員 遠藤俊祐 伊神洋平 横山 正）

2024年7月10日(水)から7月26日(金)までの間に投票いただきました，一般社団法人日本鉱物科学会次期役員選挙結果について，以下の様にお知らせします。

なお，下記定款に従い，理事候補者と監事候補者は2024年9月13日(金)に開催の2023年度定時総会にて選任され，会長候補者，副会長候補者は同日開催予定の2024年度第1回定例理事会にて選定されます。

### 定款抜粋（役員を選任）

第20条 理事及び監事は，総会の決議によって選任する。

2 会長及び副会長は，理事会の決議によって理事の中から選定する。

投票用紙発送総数：813（内訳：WEB 775 郵送 38）

総投票数：170（内訳：WEB 164 郵送 6）

有効投票：169（内訳：WEB 163 郵送 6）

無効投票：1（内訳：WEB 1 郵送 0）

開票日：2024年7月31日

立会人：磯部博志，森 宏

下記理事候補者22名，理事次点候補者1名，監事候補者1名について，一人ずつ氏名を読み上げそれぞれについて諮ります。

理事候補者（会長候補者）		
1	井上 徹	広島大学大学院先進理工系科学研究科 高圧地球科学
理事候補者（副会長候補者）		
2	中村美千彦	東北大学大学院理学研究科 火山学・岩石学
理事候補者		
3	秋澤 紀克	東京大学大気海洋研究所 岩石学、地球化学
4	安東 淳一	広島大学先進理工系科学研究科 岩石鉱物変形学
5	大藤 弘明	東北大学大学院理学研究科 鉱物学、応用鉱物学、電子顕微鏡
6	鍵 裕之	東京大学大学院理学系研究科 高圧地球科学
7	片山 郁夫	広島大学先進理工系科学研究科 岩石レオロジー
8	河上 哲生	京都大学大学院理学研究科 岩石学
9	栗林 貴弘	東北大学大学院理学研究科 鉱物結晶学、鉱物学
10	黒澤 正紀	筑波大学生命環境系地球進化科学専攻 鉱物学
11	佐久間 博	物質・材料研究機構 鉱物物理学
12	瀬戸 雄介	大阪公立大学大学院理学研究科 X線/電子線結晶学
13	DAS Kaushik	広島大学先進理工系科学研究科 変成岩岩石学・構造地質学
14	辻森 樹	東北大学東北アジア研究センター 岩石学
15	土屋 旬	愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター 鉱物物理
16	富岡 尚敬	海洋研究開発機構高知コア研究所 惑星物質科学、高圧鉱物学
17	永嶋 真理子	山口大学大学院創成科学研究科 鉱物学
18	中野 伸彦	九州大学大学院比較社会文化研究院 岩石学
19	M. Satish-Kumar	新潟大学理学部 岩石学
20	三河内 岳	東京大学総合研究博物館 惑星物質科学
21	森下 知晃	金沢大学理工研究域・地球社会基盤学類 マントル岩石学
22	芳川 雅子	広島大学先進理工系科学研究科 岩石学・地球化学
次点	阿依アヒマディ	Tokyo Gem Science LLC, GSTV 宝石学研究所 宝石学、結晶学、鉱物学
監事候補者		
	永井 隆哉	北海道大学大学院理学研究院地球惑星科学部門 鉱物物理化学

閉会宣言

## *Agreement for Academic Cooperation and Exchange between*



## *Mongolian Society of Economic Geologists and Japan Association of Mineralogical Sciences*

**Article 1.** This Agreement defines the principles and methods of cooperation between the Mongolian Society of Economic Geologists and the Japan Association of Mineralogical Sciences to develop geosciences and mineralogical sciences under equal partnership.

**Article 2.** The Japan Association of Mineralogical Sciences and the Mongolian Society of Economic Geologists agree to promote scientific cooperation between the two societies through the following means:

- 1) Mutual invitations to participate in scientific seminars, regular meetings and field trips
- 2) Joint organization of seminars and scientific meetings
- 3) Joint or collaborative research activities and publications
- 4) Exchange of academic and educational materials and other information
- 5) Promotion of other academic and educational cooperation as mutually agreed

**Article 3.** Both Societies agree to carry out the above activities in accordance with the laws and regulations of the respective countries and with the full consultation and approval of both Societies. It is understood that the implementation of any of the types of cooperation stated in Article 2 may be limited depending on the availability of resources and financial support. The implementation of this Agreement shall not entail any financial obligations for either Society.

**Article 4.** This Agreement shall be in force for a period of five years from the date of signature by the representatives of both Societies. This Agreement may be renewed after review and renegotiation by both Societies.

(Signature)

(Signature)

---

**Magsarjav OCHIRBAT**  
**President**  
**Mongolian Society of Economic  
Geologists**

---

**Masaaki OWADA**  
**President**  
**Japan Association of Mineralogical  
Sciences**

Date: \_\_\_\_\_

Date: \_\_\_\_\_

## 各賞授賞式（大和田会長）

### 【1】2023年度日本鉱物科学会賞表彰

第29回受賞者：橘 省吾 会員（東京大学大学院理学系研究科宇宙惑星科学機構・地球惑星科学専攻）  
業績題目：「初期太陽系における惑星材料物質の化学進化に関する実験的研究」

第30回受賞者：土屋 範芳 会員（八戸工業高等専門学校）  
業績題目：「岩石—水相互作用に関する研究」

### 【2】渡邊萬次郎賞表彰

第40回受賞者：松原 聰 会員

### 【3】2023年度日本鉱物科学会論文賞

#### 第27回受賞論文

Title: Petrogenesis of Oligocene to Miocene volcanic rocks from the Toyama basin of the SW Japan arc: Temporal change of arc volcanism during the back-arc spreading in the Japan Sea. 118:026 (2023)

Authors: Raiki Yamada, Toshiro Takahashi, Yasuhiro Ogita

受賞者：山田 来樹 会員，高橋 俊郎 会員，小北 康弘 会員

### 【4】2023年度日本鉱物科学会研究奨励賞表彰

第35回受賞者：石井 貴之 会員（岡山大学惑星物質研究所）  
研究対象：「高温高圧実験技術の開発とマントル鉱物の相平衡関係・結晶化学の研究」

第36回受賞者：松本 恵 会員（東北大学理学研究科）  
研究対象：「放射光X線CTと電子顕微鏡による始原的隕石・地球外リターンサンプル試料分析」

### 【5】2023年度日本鉱物科学会応用鉱物科学賞表彰

第16回受賞者：上杉 健太郎 氏（公益財団法人高輝度光科学研究センター）  
業績題目：「SPring-8における放射光を用いたX線CT装置をはじめとするX線イメージング装置の開発と鉱物科学への応用」

### 【6】2023年度JMPS学生論文賞受賞論文表彰

第17回受賞論文： Petrogenesis of Oligocene to Miocene volcanic rocks from the Toyama basin of the SW Japan arc: Temporal change of arc volcanism during the back-arc spreading in the Japan Sea. JMPS v.118, 026,(26p.) 2023

Authors: Raiki YAMADA, Toshiro TAKAHASHI, Yasuhiro OGITA

受賞者：山田 来樹 会員（投稿時：新潟大学 D3）